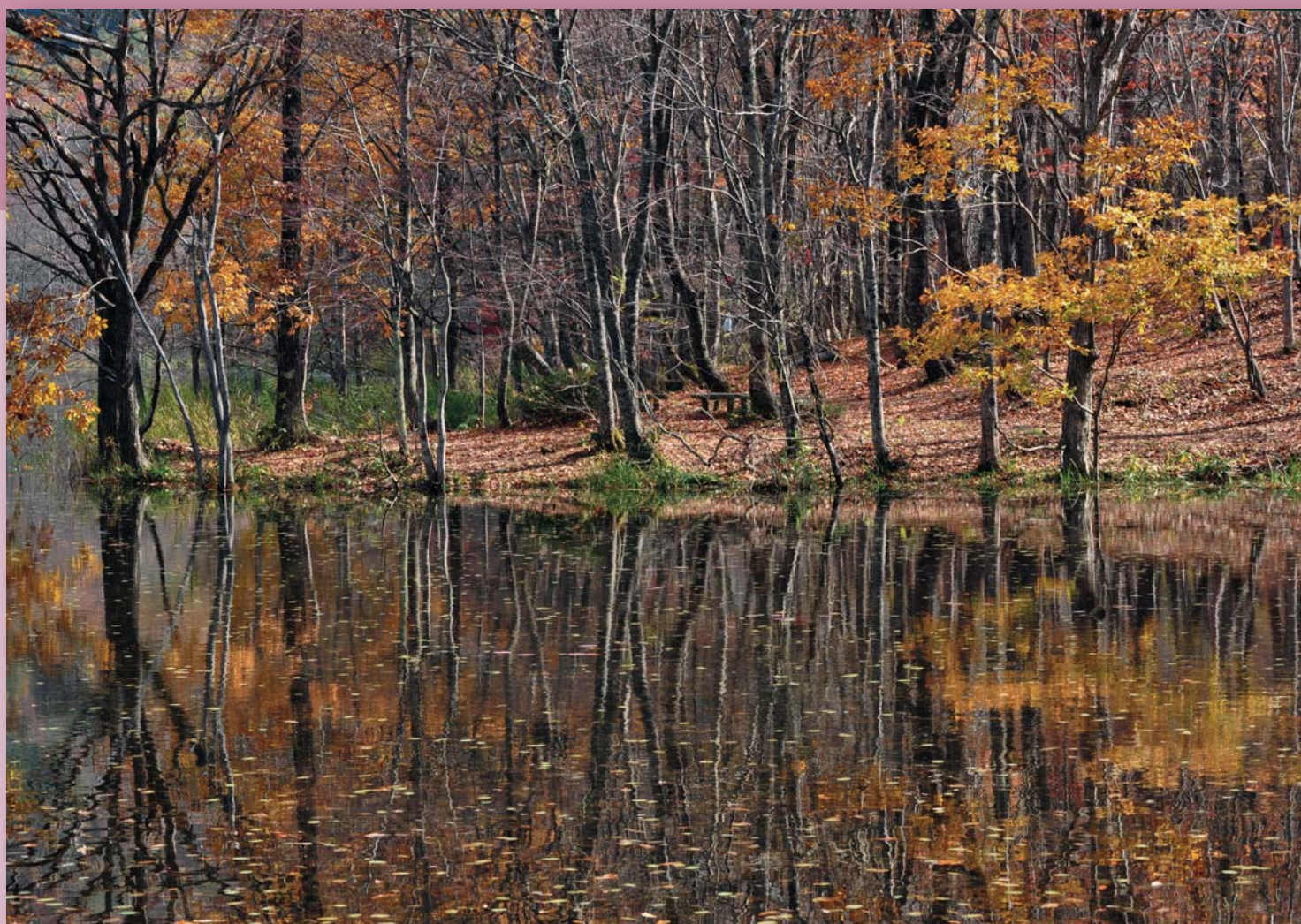


電気のふるさと



特集

「協働」と「連携」によるまちづくり⑩ ～北海道上川郡東川町の地域活性化事業～
「写真の町」づくりを中心とした
交流事業から定住移住促進を目指す東川町

■わがまち自慢 ～市長室から～
島根県松江市

■電源地域振興トピックス
町の活性化と“再生”に向けた各地の取り組み

わがまち自慢 ～市長室から～

まつえ
島根県松江市
まつうら まさたか
松浦 正敬 市長



八雲が愛した 松江の人々の精神性

松江市は、昭和26年(1951年)に奈良市・京都市と並ぶ「国際文化観光都市」に制定され、一昨年には開府400年を迎えるなど、歴史資産の豊かな都市です。特筆すべきは、市民の生活の中にも、不昧流^{ふまいりゅう}などの茶の湯文化が浸透しているなど、歴史と文化が日常の一部となっているところでもあります。

文豪として知られる小泉八雲は、明治23年(1890年)に来日し、松江では英語教師も務めました。八雲は松江の落ち着きや佇まいにとても感動し、日本らしい景観と文化を「古い絵巻物」と記す一方、新しいものを受け止めていく姿勢にも松江らしさを見ています。

松江人には古いものを守りながら、新しいものを受け入れていく精神性があり、それは、自らの地域への愛着の強さの賜物ともいえます。

昨年度から、「縁雫」という観光プログラムを実施しています。これは、雨の多い松江だからこそ、しっとりと落ち着いた風情を楽しんでもらおうという「逆転」の発想によるアイデアと、松江市立女子高等学校の生徒による「松江大好き」という思いが結実したものです。

この松江ならではのプログラムに、

市民の皆さんも賛同してくださり、「縁雫カクテル」や「和傘に似せた傘の貸し出し」などで盛り上げていただいています。この取り組みに対して、国連ハビタット福岡本部(アジア太平洋担当)から「2013アジア都市景観賞」をいただきました。光栄なことに、ソフト事業では初めてだそうです。

本場志向。 はばたく松江ブランド

江戸時代から続く松江の特産品には、トビウオを使った「あご野焼き」や「^{はた}畑の干し柿」があります。これらは現代に至るまで市民に親しまれ続け、「本場の本物」というブランド認定を受けています。

こうした伝統的な製品のほかにも、柿やイワガキ、シジミ、セイゴ(ズキの若魚)など、地元の産品にこだわった農産物や海産物を活用した新たなブランドづくりや商品開発も活発で、農水商工連携事業として産学官が一体となって取り組んでいます。

地域産品づくりのほかにも、「Ruby City MATSUEプロジェクト」という松江にしかできないIT産業の振興策に取り組んでいます。無料でダウンロードできるプログラミング言語「Ruby」は、松江在住のまつもとゆきひろさんが開発しました。これを契機として、平成18年に『松江オープンソースラボ(松江市開発交流プラザ)』を設置しました。その結果、国内のみならず海外から多くの人々が訪れていた

ッかにしようと、様々な産学官連携で「Ruby」の普及に努めています。他にもまねができない「IT産業のまち」として、「Ruby」を地域ブランドとして育てていこうという取り組みです。

「共創のまちづくり」が 基本姿勢

これまで、力を入れてきた施策の成果として、例えば福祉分野では、おかげさまで、2013年度の合計特殊出生率は、全国平均1.41に対して1.61となり、待機児童数はゼロとなりました。医療費の無料化対象年齢を上げるなどの子育て支援を充実させており、2008年の「日経新聞行政サービス調査」では、全国3位の評価をいただいています。

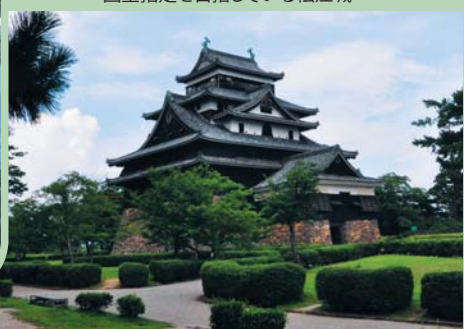
このような成果や、松江が持つ歴史文化、産業などを最大限に活かしながら育てつつ、将来につなげていくため、今、「共創のまちづくり」を市政の基本姿勢として提起させていただいています。いろいろな分野の市民のつながりや組み合わせで、新しいものを生み出そうという考え方です。

ご紹介した様々な取り組みも、「共創のまちづくり」を前提に取り組んでおり、今後とも、市民の皆さんとともに、八雲が愛した松江の魅力をさらに高めていきたいと思っています。(談)



縁雫。松江市立女子高等学校が2012年度の「観光甲子園(主催:神戸鳳川学院大学)で文部科学大臣賞を受賞したことが契機になった

一昨年、築城年がわかる祈禱札が見つかり、国宝指定を目指している松江城



松江オープンソースラボでの「中学生Ruby教室」。毎年「Ruby」の国際会議を行っており、昨年から「Ruby Prize」を創設して、これからの人々を顕彰している



「協働」と「連携」によるまちづくり⑩ 北海道東川町の地域活性化事業

「写真の町」づくりを中心とした

交流事業から定住移住促進を目指す東川町

- 【写真】1 今年度の「全国高等学校写真選手権大会（写真甲子園）」本戦に出場した選手の皆さん
2 「鉄道がない・国道がない・水道がない」東川町の全景
3 東川町の区域の一部を占める大雪山国立公園
4 アーティストチックな雰囲気のある街並み
5 町内の天ノ峡温泉近くにある「羽衣の滝」は「日本の滝百選」のひとつ
6 東川町役場壁面には「写真文化首都」の文字が誇らしげに描かれている
7 「上水道がない」東川町では、美しい地下水を生活用水として活用する。ここは銘水として知られる「大雪旭岳湧水」

ひがしかわ ちよう
北海道上川郡東川町は、写真によるまちづくりを行って「写真文化首都」を宣言した町。今回は、そのユニークで先進的なまちづくりを推進する事例をお届けする。

本年3月、 「写真文化首都」宣言を行う

旭川空港から車で約10分、大雪山を車窓に見ながら走ると、花の植栽で彩られた街並みに入る。通り沿いの商店や飲食店には、木造りのおしゃれな看板がぶら下がり、アーティストチックで明るい雰囲気包まれている。

ここが、日本最大の自然公園「大雪山国立公園」の区域の一部を占める東川町だ。その町役場の壁面には「写真文化首都」の文字が誇らしげに躍る。プロはもちろんアマチュア写真家・愛好家を含めた写真界の中

で知らない人はいない「写真の町」なのである。

1985年（昭和60年）、東川町は「写真の町宣言」を行った。

当時、まちおこしのために各市町村では「一村一品運動」が盛んに行われていたが、東川町が打ち出した「二品」は、「写真」。「写真映りのよいまち」を目指すというものであった。

東川町情報

【人口】7,857人（平成26年3月31日現在）
【面積】247.06平方キロメートル
（東西36.1km・南北8.2km）
【発電所データ】
北海道電力（株）新忠別水力発電所
【本特集問合せ先】
東川町役場 企画総務課 企画財政室
☎0166-82-2111（代）



〔右〕写真文化ギャラリーでは、内外の写真家の作品が常時展示されている
〔左〕本年度の「写真の町東川賞・国内作家賞」を受賞した野口里佳さん

■写真の町東川賞

海外作家賞	1名	賞金100万円
国内作家賞	1名	賞金100万円
新人作家賞	1名	賞金 50万円
特別作家賞	1名	賞金 50万円
飛弾野数右衛門賞	1名	賞金 50万円

「豊かな自然とその中で生きる町を被写体と捉え、この美しい環境を後世のために守り育てながら、人々がいきいきと暮らす町であり、住民でありたい」という意味で「写真の町」宣言を行ったのだ。そこから、「写真文化によって町づくりや生活づくり、そして人づくりをしよう」という、世界でも類例のない、まちおこしの試みとなった。

宣言の同年に開催されたのが、1ヶ月を会期とする「東川町国際写真フェスティバル」。

その年から毎年開催され、今年で30回を数える。この会期中に発表される「写真の町東川賞」は、「海外作家賞」「国内作家賞」「新人作家賞」「特別作家賞」「飛弾野数右衛門賞」の5



「私たちは、30年にわたって写真文化を通じた潤いと活力のある町づくりに取り組んできました。そのうえで、写真文化と世界の人々をつなぐ役割を担うという決意で、今年、『写真文化首都』の宣言をさせていただきます」

今では、日本の数ある写真賞のなかでも最も権威のある賞のひとつになり、地方の一自治体が顕彰するものとしては異例といつてよい。

町長の松岡市郎さんは語る。



東川町長
松岡 市郎 さん



〔上〕「写真甲子園」本戦に出場した選手の撮影
〔中〕「写真甲子園」の公開審査
〔下〕「写真甲子園」の授賞式

大きな反響を呼ぶことになった。

この「写真甲子園」も大きな危機を迎えたことがあった。運営していた企画会社が第12回大会直前に倒産してしまったのだ。急遽、町が中心となって運営しなければならず、役場に

しかし、「写真の町」づくりの道は、簡単ではなかった。

当初、「写真でメシが食えるの？」というのが、多くの町民のいつわらざる心境だった。1991年（平成3年）には、町民の意思によって、とうとう行政は「写真の町」事業を見直すということになってしまう。

だが、この取り組みは町外で注目されており、特に東京のマスコミや文化人の評価は極めて高かった。小さな地方都市が、写真で自らを世界に発信しようという「心意気」に賛同する人が多かった。そのため、引くに引けない状況に陥ってしまった。

それを大きく打開したのが、1994年（平成6年）の全国高等学校写真選手権大会、通称「写真甲子園」

多くの障害を乗り越えて 「写真甲子園」の開催を継続

の開催であった。

全国を8つのブロックに分け、その初戦を勝ち抜いた18校の選手3名と監督1名が、「国際写真フェスティバル」の期間中に開かれる東川町での本戦に招待される。大会は4日間。この期間の中で、選手3人一組で撮影した8枚の組写真でファーストからファイナルまで3回の公開審査を行い、優勝、準優勝、優秀賞を決めるというもの。

撮影場所は今年の場合、東川町、美瑛町、上富良野町、東神楽町、旭川市の指定されたところで、撮影時間、カメラ機材、パソコンなど全て同一条件下で作品づくりが行われる。文化系サークルが体育会的な「選手権」を行うというユニークな試みは



写真文化ギャラリーのある建物。東川賞受賞者をはじめ、内外の写真家のオリジナルプリントを収蔵している



国内外の作家の作品が町内の飲食店にさりげなく掲示されている

「写真甲子園」を含む「東川フォト・フェスタ」という愛称で呼ばれる、この写真フェスティバルの会期は約1ヶ月。8月上旬に設定されたメイン会期では、東川賞授賞式を中心に、受賞作家作品展やシンポジウム、写真家たちと出会う各種パーティ、新人写真家の登龍門ともいえる写真インディペンデンス展、写真愛好家・大学生によるストリートフォトギャラリー、写真と音楽のコラボレーション

など、写真が異分野の文化と出会うイベントも多数行われる。夏の1期間、東川町はプロの写真家や映像作家、写真愛好家、高校生、写真キュレーター（学芸員）、写真関連業者、ボランティアなどで満ちあふれる状況となる。大会を支えるボランティアの中には、かつて選手として参加したOB・OGも少なくない。期間中の「出会い」や「感動」が忘れられないのだ。特に町内ホー

町民との出会いが、さらなる感動を生む

かかる負担は相当なものになった。しかし、そのピンチが「写真甲子園」の質を大きく変えることになる。町民のなかに、「町が主催する大会」として積極的にかわる人が出てきて、その中から、新しい企画が次々と生まれた。さらに大きく発展する大会となるチャンスとなったのだ。「町内ホームステイ」、町民の投票によって決める「町民賞」、期間中

の「トマト収穫体験」などは、こうして出てきた企画だった。開催当初、初戦の参加は163校だったが、第21回を迎えた今年は521校。「東川を目指せ!」というのが全国の高校写真部の合言葉となっている。今年から、タイや台湾からの高校もオープン参加しており、海外にまで広がるようになってきた。



写真の町課長
竹部 修司 さん



写真の町課学芸員
吉里 演子 さん

ムステイでの高校生と町民との交流は、「写真の町宣言」にある「出会いの中に感動が生まれます」というものになっている。

そうした「写真の町」事業を一手に引き受けているのが「写真の町課」だ。課長の竹部修司^{たけべしゅうじ}さんと3名のスタッフで構成されている。

「フォト・フェスタの期間やその前後を除いて、ご協力いただく団体や企業、写真家の先生などを回って日本中を飛び歩いています。ほとんどセールスマンですね」と竹部さんは笑う。

なるほど、そのパンフレットに載っている協力・協賛団体は、大手カメラメーカーをはじめ写真関連企業、出版社、大学・専門学校などか

ら航空会社、旅行会社まで幅広い。こうした、「フォト・フェスタ」や「写真甲子園」以外にも、写真関連事業は数多い。年1回、プロの講師を招いて開催する「ワークショップ 東川写真塾」や、小中学生を対象にした「写真少年団」、町民が参加する年1回の「東川大写真展」、小学校で行う総合学習の時間を活用した「写真授業」などだ。これらは町の写真人口を増やすのがねらいで、東川出身



町内の子どもたちによる「写真少年団」の活動



道の駅「道草館」には寄贈されたクラシックカメラが展示されている



投資事業のひとつある「ECOプロジェクト」の「環境を守る森づくり事業」

の若手写真家の育成も見据えている。写真の町課のスタッフの中で芸芸員として働いているのが、大阪出身の吉里演子^{よしざとこ}さん。

かつて写真甲子園に出場し、大学を卒業後、大会を主催者の側から支えたいと、町の職員になった。「写

「ふるさと納税」ではなく「ふるさと株主」というコンセプト

「写真の町」事業と並んで、注目されているのが、「ひがしかわ株主制度」だ。2008年（平成20年）にスタートした。

これは、町が進める事業を選んで1株1,000円で投資し、目標金額が達成されると町が事業を開始するというもの。町民はもちろん、町外在住の人でも株主になることができ、

その場合は、東川町の木工作家による木製写真立てに入れられた「東川町特別町民」の認定証と「株主証」が贈られる。本年度の投資の対象事業は、「写真の町プロジェクト」をはじめ、自然散策路整備やひがしかわワイン事業などの「イ

真の町」事業に携わるほか、「写真少年団」の講師も務める。

「写真の町」ということで東川に移住して来たプロの写真家も増加しており、「写真の町」東川町の取り組みは、ますます奥深いものとなってきた。



「東川町特別町民」の認定証と「株主証」

エコトプロジェクト」、水と環境を守る森づくりの「ECOプロジェクト」、オリンピック選手を育成する「こどもプロジェクト」の4つ。目標金額が高い「写真の町プロジェクト」以外は投資目標を達成して、既に事業を実施している。

株主は、「株主証」を提示すると、町内の加盟している温泉施設や町内の商店などで割引の特典が受けられ、町営の「キトウシ森林公園 家族旅行村ケビン」「大雪遊水ハウス」「小西健二音楽堂」といった宿泊施設などを優待料金で利用できる。さらには1万円（10株）以上投資した株主は、町の「ふるさと交流セ

ンター」に、年6泊まで無料で宿泊が可能だ。このほか、1万円（10株）以上投資した株主のなかの希望者には、その額に応じて最低5,000円相当の東川町の特産品（ひがしかわみやげ）が贈られる。

投資額の実績（累計）は、2008年度（平成20年度）の開始当初が約1,165万円、昨年度は約8,377万円、今年度7月現在で、なんと約9,118万に上る。株主の数は2,900人になった。「ひがしかわみやげ」などの額を差引くと、純粋投資額は約7,329万円となる。

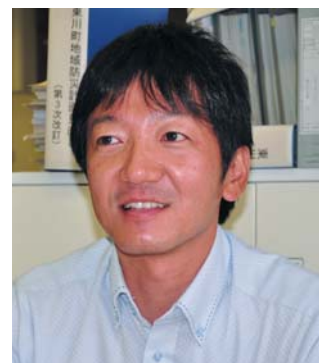
これらの投資は「ふるさと納税」における寄付として扱われる。そのため、株主は税制優遇制度を受けられる。なのに、東川町では「ふるさと株主」という名称を冠した。

この事業の担当者である、企画総務課企画財政室長の吉原敬晴^{よしはらのりはる}さんは言う。

「ひがしかわ株主制度」における株主（登録者）数と投資額

年	登録者数	投資額
2009年3月末	415件	11,651,000円
2010年3月末	688件	22,645,000円
2011年3月末	919件	29,867,000円
2012年3月末	1,344件	42,142,000円
2013年3月末	2,614件	83,773,000円
2014年7月末	2,900件	91,187,000円

※数字は累計



企画総務課 企画財政室長
吉原 敬晴 さん

「税という言葉は、一般の人々にとって強制力のようなものをイメージします。株主だと、自主的に投資先の事業に参加するという意識も高まるのではないだろうか」

そこには、「写真の町」事業をはじめとする自らの事業に対する自信と心意気があるようだ。

株主の資金提供は、クレジット決済も可能。だが、東川町の特徴は、役場窓口での現金支払いの比率が高いことと、町外の人によるものが多いこと。これは「写真甲子園」などで東川町を訪問した人々が、ついでに株主になるケースが多いことを類

〔上〕1万円（10株）以上投資した株主は、年6泊まで無料で宿泊可能な「ふるさと交流センター」
〔下〕「ふるさと交流センター」のサロンには町内の木工作家によるテーブルが置かれている

「環境を守る
森づくり事業」
の植樹風景



「ひがしかわ株主ファームオーナー」を募集して新鮮な野菜や米をお届けする

東川町のこの事業は、単に「ふるさと納税」を「ふるさと株主」と名を変えただけのように見えるが、実はそこには、本質的な違いが隠れているように思える。

推させる。また、毎年資金提供を行うリピーター率が今年の場合、3割を超えることなども大きな特徴だ。

今流行の「ふるさと納税」だが、地方の特産品を安く手に入

入れられるという、大都市の消費者の「お得感」をくすぐるだけでよいのだろうか。都会の消費者は、「浮気者」が多い。「ふるさと納税」の

本来の目的は、持続的な地域の発展を目指す「ファンづくり」にある。

そのためには、地域の側に、特産品開発などの事業に対する強い「思い」

がなくてはならない。

土地開発公社や民間の分譲宅地も順調な売れ行きを示している。町の分譲地は1993年（平成5年）か



町内の分譲住宅。景観条例を制定して自然と調和する設計基準のもとに建てられている

交流人口の増加促進から 定住移住人口の増加へ

このように、株主である「特別町民」2,900人と町の人口約7,900人を合わせると、東川の「人口」は1万800人となる。

交流人口の増加を事業の軸として展開してきた東川町だが、当然、その先には、実質的な定住移住人口の増加促進という目標がある。

2002年（平成14年）の7,576人に対し、12年後の本年8月末現在で7,916人と、340人の人口

増加が見られた。木工ラフトや家具・写真などの仕事、飲食店、パン屋、雑貨店などを開業した人たちが

多い。翌年からは、町で起業する人たちへの支援も行っている。

2003年（平成15年）の「景観条例」の制定後は「東川風住宅」の設計指針を設定している。屋根の勾配や色、外壁の色など、具体的な指針を定めることによって、大雪山の山並みと調和して地域の景観になじ

ら造成を始め、昨年までに669区画が販売された。

2008年（平成20年）からは、専門学校などと提携してアジア地域の人々を対象とした「日本語と日本文化体験学校」を開設した。今年度はアジアを中心に、友好姉妹都市交流をしているラトビアなどから、約200名の高校生や大学生が訪れて

いる。町は「町民との交流」が積極的に進めよう様々な行事で、彼らを迎えている。

また、東川町で「婚姻届」や「出生届」を提出すると、記念品や誕生する子供たちへ「君の椅子」として木工作家による手作りの椅子を贈っている。これも定住促進策のひとつだ。

また「JETプログラム」（語学指導等を行う外国青年招致事業）で、語学指導に

「君の椅子」は町内に住む木工作家による作品

東川町で出生すると「君の椅子」が贈られる



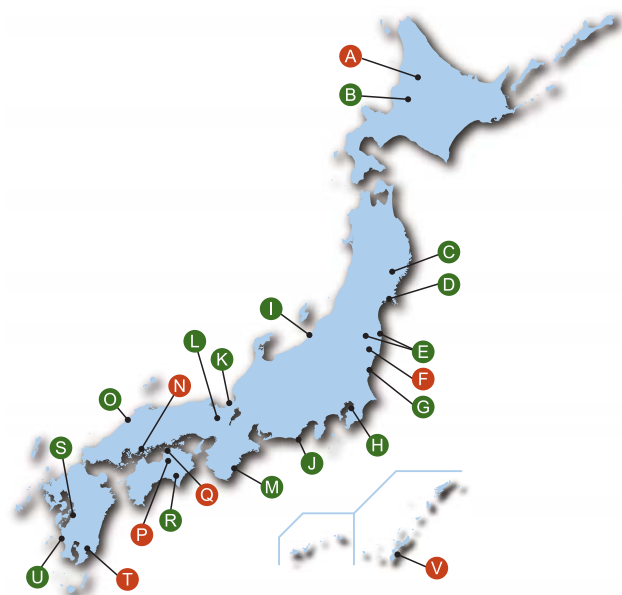
従事する外国語指導助手（ALT）や国際交流員（CIR）も7人在住する。

町の交流事業は、国内にとどまらず、海外の人々も「特別町民」になつてもらうような取り組みも開始しており、こうした人々と連携したネットワーク化による観光振興を目指している。

もともと東川は、大雪山の麓で森林業と木工業を中心に、ひっそりとした暮らしを営んでいた町であった。その町が、自らの生存をかけた「写真の町」宣言を行って30年、いまや「世界のHIGASHIKAWA」となった。その未来に世界中が注目している。

電源地域

情報ひろば



「電源地域情報ひろば」は、各市町村で開催されるイベント・伝統的なお祭りや、特産品などの情報をまとめて掲載するコーナーです。イベント・お祭りについては今回は10～12月の情報です。読者の皆様方で掲載のご希望がございましたら、電気のふるさと編集室までお知らせください。自薦、他薦を問わず受け付けています。なお、掲載費用が発生することはありません。（編集の都合上、掲載できない場合がございますことを予めご理解願います）

■地域振興部 振興業務課 電気のふるさと編集室

☎03-6372-7305 E-mail : furusato@dengen.or.jp

イベント すながわ 砂川市〔北海道〕

地図 B

北海道義士祭

「北海道義士祭」とは、赤穂浪士の熱烈な崇拝者だった初代住職（現住職は4代目）が、四十七士のお墓のある本家の東京・泉岳寺に、義士墓建立と寺名の変更を陳情したことにより始まりました。当初は許可が出ませんでした。2代目住職が志を受け継ぎ、昭和27年12月初旬、泉岳寺の内諾を受けることができました。その後、泉岳寺より「北泉岳寺と名のついてもよい」という承認書が届き、大石内蔵助はじめ義士の墓の土を47個の木箱にわけて持ち帰り、昭和31年に墓所を造り、盛大な開眼、入魂祭を挙行了しました。

【開催日】12月14日（日）【問合せ先】北海道義士祭事務局（北泉岳寺内）☎0125-53-3513
【URL】<http://www.47gishi.com/>



雪踏みしめて義士祭

特産品 ほろかないちよう 幌加内町〔北海道〕

地図 A

そば新品種「ほろみのり」

寒暖差があり、霧が発生し、湿度の低い幌加内町は、そばの作付面積、収穫量ともに日本一を誇っています。

様々な品種があるなかで、幌加内町では、町独自の品種を作ろうと町農業技術センターを設けて専任の職員を置き、平成9年から品種改良に取り組みました。その結果、10年の歳月をかけて新品種「ほろみのり」が誕生しました。従来の「キタワセソバ」より背丈が短く、風雨による倒伏が少ないため脱粒が少ないものです。平成16年に品種登録を受け、18年から本格的な作付けが始まり、現在は約130ヘクタールで栽培されています。甘みが強い上品な味をぜひ味わってみてください。

【問合せ先】ほろかない振興公社 ☎0165-35-2275



北の大地で育つ「ほろみのり」

イベント いしのまき 石巻市〔宮城県〕

地図 D

牡鹿鯨まつり

全国有数の捕鯨基地として、長い歴史と独特の鯨文化を育み、捕鯨で栄えた「鯨の町」牡鹿。「牡鹿鯨まつり」とは、1953年から海難事故者の慰霊・鯨霊供養をこめて開催されているお祭りです。

昨年は東日本大震災後、3年ぶりの開催となりました。

今年も石巻市鮎川浜で開催されます。「牡鹿鯨まつり」では、牡鹿ならではの鯨肉の炭火焼き無料試食コーナーや、特設ステージでの伝統芸能鮎川七福神舞などのイベントが予定されています。

【開催日】10月5日（日）【開催場所】石巻市鮎川浜（旧公民館跡地）／石巻市鮎川浜湊1163
【問合せ先】牡鹿鯨まつり実行委員会 ☎0225-45-3456
【URL】<http://www.i-kanko.com/>



お祭りステージ

イベント おうしゅう 奥州市〔岩手県〕

地図 C

奥州水沢グルメまつり

「奥州水沢グルメまつり」とは、南部鉄器で有名な「鑄物のまち水沢」ならではの、直径3.5m・重さ5tの日本一のジャンボ鉄鍋で作った6,000人分もの芋の子汁を来場者にふるまうイベントです。

併催される「奥州市水沢産業まつり」では、「恵みの秋・収穫の秋」で、地元農産物や物産品の販売ほか、子どもたちも楽しめるコーナーもあり、毎年大盛り上がりとなっています。

【開催日】10月18日（土）、19日（日）※奥州水沢グルメまつりは19日（日）のみ開催（奥州市水沢産業まつりは18日（土）、19日（日）両日開催）
【問合せ先】奥州水沢グルメまつり実行委員会（奥州商工会議所内）☎0197-24-3141
【URL】<http://www.city.oshu.iwate.jp/kanko/>



日本一のジャンボ鉄鍋

特産品

さがむら

鮫川村 (福島県)

地図 F

糖尿病の予防改善で注目されるキクイモの焼酎

福島県鮫川村の「むらおこし酒販店会」は、村産キクイモを使った焼酎乙類「満天の空」を商品化しています。同村では「バイオマスヴィレッジ構想」を進めていますが、バイオエネルギー作物の研究に取り組む東京農大の土壌分析で、キクイモが適地作物と判明しました。そこで農業振興と遊休農地の解消につなげるために、特産品としてキクイモ焼酎の開発を行いました。キクイモは血糖値を下げるのに有効といわれ、健康食品として知られています。さわやかな香りとほのかな甘みが特徴です。720ml入りで税込み1,388円。



村産のキクイモ使用

【問合せ先】同酒販店会(村商工会内)
☎0247-49-2171

イベント

こおりやま

なみえまち

郡山市・浪江町 (福島県)

地図 E

B-1グランプリ in 郡山

「B-1グランプリ」は、日本最大級のまちおこしイベントとして認知され、毎年開催地はもちろん、多くの出展団体の地元を盛り上げる、国民的イベントとなっています。

今大会は、「東北・福島応援特別大会」と位置付け、浪江町と連携し、震災の風化防止と風評被害の払拭を図るとともに、郡山市をはじめとする福島県の魅力も全国に発信します。

当日は、各地自慢のご当地グルメを味わうとともに、工夫を凝らしたまちのPRやパフォーマンスをお楽しみください。

【開催日】10月18日(土)、19日(日) 【会場】福島県郡山市 開成山公園会場、ザ・モール郡山 駐車場会場、郡山市役所駐車場会場 【問合せ先】B-1グランプリ in 郡山実行委員会
☎024-924-3551 【URL】http://b-1koriyama.com/



B-1グランプリ 表彰式

イベント

いちばら

市原市 (千葉県)

地図 H

Haloweeseenパレード!

市原市最大のイベント、「第4回上総いちばら国府祭り」が今年も開催されます。毎年2日かけて行われますが、1日目の大トリを飾るのが「Haloweeseenパレード!」です。

夜のパレード特有の、一味違ったワクワク感があります。ただ今参加者大募集中!

募集期間は10月24日(金)まで。お子様や学生さん、一般成年など、老若男女問わずにお待ちしております。

今年もカリスマアイドルコスプレイヤーの五木あきらさん(いちばら観光PR特使)が出演します。

【開催日】10月25日(土) 【問合せ先】市原市観光協会 ☎0436-22-8355
【URL】http://www.ichihara-kankou.or.jp/pdf/kokupa.pdf



みんなでパレード

イベント

とうかいむら

東海村 (茨城県)

地図 G

東海I〜MOのまつり&東海村産業祭

「東海I〜MOのまつり」は、東海村の特産品である「さつまいも」をテーマにした茨城県内唯一の「さつまいもの祭り」です。

東海村名産のさつまいもで「イモ掘り探検隊」や「イモ積み競争」、イモの「ジャンジャン取り」等、楽しいプログラムや、焼きいも、さつまいもの入ったふるさと大鍋等のいろいろなさつまいも料理も堪能できます。

「東海I〜MOのまつり」で秋の味覚をお楽しみください。

【開催日】11月23日(日・祝) 【開催場所】東海文化センター
【問合せ先】東海村役場 まちづくり推進課 ☎029-282-1711
【URL】http://tokai-kanko.com/



さつまいもに駆け寄る来場者たち

イベント

おまえざき

御前崎市 (静岡県)

地図 J

市制施行10周年記念コンサート 市民による オペラ「蝶々夫人」

平成26年度は、御前崎市制施行10周年を迎え、11年目をスタートする節目の年です。これを記念して、市民参加のオペラ「蝶々夫人」を上演します。

この「蝶々夫人」のプリマドンナとして世界的に大活躍した三浦環は、御前崎市下朝比奈出身の父を持つ、この地域にゆかりのあるオペラ歌手です。

「蝶々夫人」はイタリアの作曲家プッチーニによる長崎を舞台にした作品で、没落士族令嬢の蝶々さんとアメリカ海軍士官ピンカートンとの悲恋を描いています。

日本が舞台ということもあり、日本人に最もなじみが深く、「ある晴れた日に」は日本人の心に響くとても有名なアリアです。

【開催日】12月14日(日) 14:00開演 【問合せ先】御前崎市総務部秘書政策課 ☎0537-85-1161 【URL】http://www.city.omaezaki.shizuoka.jp/10thanniversary/index.html



オペラ「蝶々夫人」ご案内

イベント

かしわざき

柏崎市 (新潟県)

地図 I

狐の夜祭り

「狐の夜祭り」は、柏崎市高柳町栃ヶ原地区に伝わる「藤五郎狐」という民話をモチーフとしたお祭りです。栃ヶ原の狐が好物の量一量の大油揚げを揚げ、狐の夜祭り神事などを行った後、ロウソクを灯した提灯を持った狐の行列が暗い山道を進みます。

漆島会場では広場で炎を囲み、幻想的な「きつねの踊り」を披露します。「歩いた人から狐の気分」のキャッチフレーズのとおりに、観客参加型のイベントです。「スタッフが楽しい・参加した人が楽しい」をモットーに、狐にこだわった手作りのお祭りです。

【開催日】10月12日(日) 【問合せ先】柏崎市高柳町事務所地域振興班 ☎0257-41-2241 高柳町観光協会 ☎0257-41-2112 【URL】http://www.jonnobi-takayanagi.jp/



狐の提灯行列

イベント ^{きょうたん ば ちょう} 京丹波町 (京都府)

地図 L

京丹波 食の祭典2014

丹波くり、丹波黒豆、丹波大納言小豆など、食の名産品が豊富な京丹波町で「京丹波食の祭典2014」が開催されます。

京丹波ならではのこだわりの食が大集合し、「食の京丹波No.1決定戦」という屋台グランプリが開催されます。

このほか、とれたて野菜の販売や地元食材をたっぷり使った『須高鍋(豚汁)』販売などもあります。

「ココロもオナカもシアワセいっぱい！」で楽しめるイベントです。

【開催日】10月26日(日)

【問合せ先】京丹波町観光協会 ☎0771-89-1717

【URL】<http://fes.kyotamba.org/>



食の祭典会場

イベント ^{み は まち ちょう} 美浜町 (福井県)

地図 K

若狭路恐竜展2014

美浜町総合体育館に恐竜博物館の恐竜たちがやってきます！

世界最大級である福井県立恐竜博物館が所蔵する24体の全身骨格標本はとて迫力があります。

福井県で発見された新種の恐竜「フクイラプトル」をはじめ、大型肉食恐竜「スコムス」の全身(11m級)や実物の化石など、常設展では見ることができない秘蔵の骨格標本を多数展示します。恐竜の歴史や進化の謎を体感してみませんか。

また、美浜町制施行60周年を記念して、60年の歩み写真展、若狭路物産展等を同時開催します。

【開催日】10月4日(土)～11月16日(日)

【問合せ先】若狭路恐竜展2014実行委員会事務局

(福井県ブランド営業課) ☎0776-20-0227



大型肉食恐竜「スコムス」の骨格標本

若狭路恐竜展

検索

特産品 ^{たけはら} 竹原市 (広島県)

地図 N

「いもタコカレー」を新たに発売

竹原市のご当地メニューは「たけめし」が有名ですが、それに加えて特産のジャガイモ、近海でとれたタコを使った「いもタコカレー」も新たに発売しています。農家レストランや道の駅などの市内の飲食店4店では、ライスは地元産ヒノヒカリ、タコの素揚げ4切れとジャガイモ半個を6つ添える決まりで、それぞれ同じ白い皿を使います。スープとデザート、漬物とセットで980円(税込み)。共通のカレールーに各店が隠し味を付けています。生産者と店の連携で生み出された、新たなご当地グルメとして話題となっています。今後は各地のイベントへの出店も検討しています。

【問合せ先】竹原市産業振興課 ☎0846-22-7745



統一された決まりで提供される

イベント ^{くまの} 熊野市 (三重県)

地図 M

大森神社例大祭(どぶろく祭)

熊野市北端に位置する山間の里、育生町の大森神社で「大森神社例大祭」、いわゆる「どぶろく祭」が開催されます。

この祭りは鎌倉時代初期の建保元年(1213年)から800年続く伝統の祭りです。米の豊作を神に感謝し、来年の五穀豊穡を祈って行われる祭礼用のどぶろくを、育生地区の大森神社氏子代表が例祭の1ヶ月前から仕込みます。神事に用いられたどぶろくは、参拝者へふるまわれます。

東海地方で祭礼用のお神酒として、どぶろくの醸造を認められているのは、大森神社のほか伊勢神宮や白川郷です。

【開催日】11月23日(日・祝) 【問合せ先】熊野市観光スポーツ交流課 ☎0597-89-4111

【URL】<http://kumanoshi-kankoukyoukai.info/index.html>



どぶろくのふるまい

特産品 ^{み よし} 三好市 (徳島県)

地図 P

「奇跡のプレミアムブランド・天空ノ山茶」

三好市山城町及び西祖谷山村周辺では、お茶の在来種「山茶」が古くから自生しており、自家用として飲用されてきました。「天空ノ山茶」は、その山茶の中でも栽培種にはない味・香りを持った茶木を限定し、栽培しています。

山城・西祖谷地区の急峻な斜面と、深い山霧による日射の制限、風がおりなす絶妙なバランスの自然と、様々なDNAを持った茶木が交配することで生まれた木の個性を兼ね備えた、限られた茶木からのみ採れる希少な茶葉です。そうしたことから「奇跡のプレミアムブランド」とも呼ばれています。

【問合せ先】三好市産業観光部農業振興課 ☎0883-72-7617



「日本茶AWARD2014」で「審査員奨励賞」受賞

イベント ^{おおだ} 大田市 (島根県)

地図 O

時の祭典

「時の祭典」とは、「仁摩サンドミュージアム」に設置されている1tの砂を1年かけて落とす世界最大の砂時計を回転させ、新年を迎えるイベントです。

当日は隣の健康公園でライブやビンゴ大会、ふるまいそば、ふるまい豚汁などの楽しいイベントが催され、新年の幕開けと共に花火もあがる予定です。

大晦日の夜、「仁摩サンドミュージアム」で、新たに時が流れはじめた1年計砂時計をご覧になりながら、新しい年を迎えてみませんか。

【開催日】12月31日(水) 【開催場所】仁摩サンドミュージアム・健康公園

【問合せ先】(財)シルバーランド振興事業団 ☎0854-88-3776

【URL】<http://www.sandmuseum.jp/>



新年の幕開け

イベント ^{うまじむら} 馬路村 (高知県)

地図 R

ゆずはじまる祭

ゆずの収穫はじめを祝い、収穫の安全を祈願する「ゆずはじまる祭」が、今年も馬路村で開催されます。

この日一日、村をあけて精一杯のおもてなしが行われます。「ごっくん馬路村」の飲み放題、馬路寿司や、ゆずうどん、ゆずを使った馬路村の鍋などの料理、馬路温泉、ヤナセ温泉ゆず風呂無料、ゆず酢特価販売、ゆずのアロマクラフト体験、ゆず手搾り体験などでお楽しみください。

ゆず香る村の空気をいっぱい吸いに訪ねてみてはいかがでしょうか。

【開催日】11月2日(日) 9:00~16:00

【問合せ先】馬路村農業協同組合 ☎0120-559-659

【URL】<http://www.yuzu.or.jp/>



ゆず手搾り体験

特産品 ^{まるがめ} 丸亀市 (香川県)

地図 Q

丸亀で生まれた名物料理「骨付鳥」

昭和20年代後半に、市内の飲食店で提供されたのが発祥といわれています。鶏の骨付きもも肉に塩、こしょう、にんにくなどでスパイスに味付けし、まるまる1本を焼き上げた料理です。柔らかくてジューシーな「若鳥」とかみごたえのある深い味わいの「親鳥」の2種類があります。特に、ビールとの相性は抜群で、丸亀に来た際には食べてみる価値がある逸品です。

丸亀では普段から食卓に並んだり、クリスマスの定番メニューになったりするなど市民のソウルフードとなっています。現在、市内で骨付鳥を提供しているお店は50店舗以上あり、お値段は平均800~900円です。

【問合せ先】丸亀市観光案内所 ☎0877-22-0331



とり奉行骨付じゅうじゅう(上)

特産品 ^{しぶし} 志布志市 (鹿児島県)

地図 T

特産のハモを使った「志布志湾三昧丼」

志布志湾はハモの宝庫として知られていますが、市内14店舗でそのハモを使った「志布志湾三昧丼」が提供されています。ウニ飯にちりめんと天然ハモの天ぷらをのせ、だし汁をかけた丼で、今年2月、鹿児島市で開かれた鹿児島県内各地の商店街が参加する「Show-1 グルメグランプリ」の本大会でグランプリを獲得しました。志布志商工会と志布志中央商店街が、試行錯誤を重ねて開発したもので大きな成果となりました。ハモは白身魚で淡白なようで脂質が多く、濃厚な味ですが、栄養も豊富です。市内では10月31日(金)まで志布志漁協主催で「志布志鰻三昧祭り」が開かれています。

【問合せ先】志布志市商工会 ☎099-472-1108



天然ハモの天ぷらがたっぷり

イベント ^{やっしろ} 八代市 (熊本県)

地図 S

八代妙見祭

380年の歴史を持つ「八代妙見祭」は、「長崎諏訪神社おくち」、「福岡宮崎宮放生会」と並ぶ「九州三大まつり」のひとつです。

この「八代妙見祭」を含む「京都祇園祭の山鉾行事及び日立風流物をはじめとする国指定重要無形民俗文化財の山・鉾・屋台行事(32件)」について、文化庁よりユネスコ(国連教育科学文化機関)の無形文化遺産登録に向けて審査案件として提出されることが決定しました。

豪華絢爛な神輿、神馬、獅子舞、花奴、笠鉦、亀蛇、飾馬などの神幸行列は一見の価値があります。

【開催日】11月22日(土)、23日(日・祝) 【問合せ先】八代妙見祭保存振興会事務取次 八代市文化まちづくり課 ☎070-5813-8246 【URL】<http://www.myouken.com/>



花馬爆走(八代妙見祭保存振興会提供)

特産品 うるま市 (沖縄県)

地図 V

糖度が高く果汁の多いあまSUN

あまSUNとは、「天草」の名称で品種登録されている柑橘類の沖縄県産ブランド名です。平成18年12月5日に県中部にあるうるま市が沖縄県の拠点産地として認定を受けています。

あまSUNは、糖度が高く果汁も多く、酸味をほとんど感じない、濃厚な甘みが特徴です。

出荷期間は12月の約1か月間と短いですが、食味と外観の良さから、近年沖縄では人気の贈答用果物として取り扱われています。

沖縄の方言で「あまさん」とは、「甘い」という意味です。「あまSUN」を食べた際は、「でーじあまさん(とっても甘い)」と口にしてみてください。

【問合せ先】うるま市経済部農政課 ☎098-965-5607



贈答用果実として人気

イベント ^{さつませんたい} 薩摩川内市 (鹿児島県)

地図 U

体験型旅プログラム きゃんぱく

「きゃんぱく(正式名称:薩摩川内スピリッツ・きやんせ博覧会)」とは、鹿児島県薩摩川内市をまるごと体感できる体験型の旅プログラムのことです。

薩摩川内市にお越しいただく「きっかけ」づくりや、市の地域資源などをまるごと紹介した「総合カタログ」と



プログラム:内之尾リバースクール 水辺で遊ぼう!

なっています。「ふれあいのモト」を詰め込んだいくつものプログラムで、旅の思い出が一生の思い出になる体験をしてみませんか。

【問合せ先】きゃんぱく事務局((株)薩摩川内市観光物産協会内) ☎0996-23-9889 【URL】<http://canpak.jp/>



昨年11月の唐津市における設立総会



ど約800の企業の工場や研究施設が集まり、製品出荷額は2兆3,400億円、7万人の雇用を創出

ある化粧品分析企業・OEM製造企業をはじめ、全国各地の企業が参加した。会員は現在87社で、その数は広がりつつある。支援会員として、佐賀県、唐津市、玄海町、経済産業

フランス中部の都市シャルトルを中心とする半径150kmの地域は、「コスメティックバレー」と呼ばれ、世界最大の化粧品産業の集積地として知られる。ロレアルやシャネルな

している。しかも、周辺農家が栽培する植物から化粧品原料を抽出し、製造・出荷まで一貫して行っており、化粧品企業はもちろん、地場産業の活性化につなげているエリアだ。

その「コスメティックバレー」の日本版を目指す6次産業化の事業が、佐賀県唐津市周辺で始まっている。

昨年11月、「ジャパン・コスメティックセンター」が設立され、市内に

日本版「コスメティックバレー」を目指して

佐賀県唐津市・玄海町

電源地域 振興トピックス

町の活性化と“再生”に向けた各地の取り組み

このコーナーでは電源地域各地の地域振興に向けた話題を取り上げています。今回は佐賀県唐津市・玄海町の日本版「コスメティックバレー」、福島県只見町の「ユネスコパーク」、同県檜葉町の仮設商店街、山梨県甲州市の「体験型ツーリズム」などの取り組みに関する話題をお届けします。



省九州経済産業局、九州大、佐賀大、唐津商工会議所など、産・学・官あがてのプロジェクトだ。

契機となったのは仏・コスメティックバレー協会名誉会長のアルバン・ミユラー氏の唐津市訪問だった。成長著しいアジア市場に近い唐津の立地、玄海町にある「薬用植物栽培研究所」、天然由来の化粧品原料素材を育みうる豊かな自然環境、そして既に化粧品の製造・検査・物流関連会社が集まってミニクラスターを

形成していることが、ミユラー氏の目に止まった。

現在の主な事業は、海外ビジネス交流事業や企業間のビジネスマッチングなどの事業化支援、公設試験場や大学等との連携による原料素材の調査など。また、情報発信にも力を入れている。

今後は、「フランスのブランド力と日本の製造技術を融合しアジア市場開拓に取り組む」と、「地域の一次産業の活性化」を目標としている。

ユネスコエコパークに登録決定！

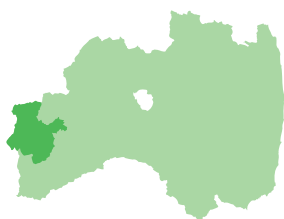
福島県只見町

本年6月12日、只見町の全域および檜枝岐村の一部が、ユネスコが実施する「人と自然との共生を実現する人間と生物圏(MAB)計画」の中心事業である生物圏保存地域(ユネスコエコパーク)に、東北地方で初の登録地となることが決定した。

ユネスコエコパークとは、地域の自然環境の保護・保全を図りつつ、自然環境や天然資源を、持続可能な形で活用すること

とで、地域の社会的・経済的な発展を図ることを目的に設けられたものだ。

現在、ユネスコ



「残雪の田子倉湖」
只見町観光まちづくり協会提供



JR中央線の廃線となったトンネルを活用

産

業遺産群を線でつなぎ 「体験型ツーリズム」を展開

山梨県甲州市

エコパークは、世界では119ヶ国631地域、日本国内では只見を含め7地域が登録されている。
只見町は過疎・高齢化が進む山間地域にありながら、地域資源を活用した地域振興に取り組んできた。平成18年に「雪と暮らすまち ブナと生きるまち」を理念に掲げ、豪雪地帯である只見町特有の自然環境、生活文化、産業を活かした町づくりを推進する地域振興計画を策定した。平

成19年には只見町の豊かな自然環境を保護・保全し、次世代に引き継ぐ責務を「自然首都・只見」として宣言している。ユネスコエコパークの目的実現のため、「自然環境、生物多様性の保護・保全」、「地域の環境資源を活かした持続可能な社会経済的発展」、これらを実現するための「調査・研究および人材育成」に関する事業を推進し、町づくりの具体化へ戦略的に取り組むこととしている。

全国各地には、我が国の産業近代化の過程を物語る数多くの建築物、機械、文書が今日まで継承されている。その代表的なものが本年度、世界遺産に認定された「富岡製糸工場跡」。経済産業省では、地域活性化の有益な「種」として、地域の活性化に役立てるため、各地に残るこ

うした文物を「近代化産業遺産」として認定している。
山梨県甲州市(旧勝沼町)は、江戸時代からのブドウ栽培と、明治

初期から続くワイン製造の町として発展してきた。市内には、近代化遺産ともいえる施設が点在するが、それを整備・修復し、市内のワイナリーと結びつけた観光ルートを作り出した。
平成11年度に立ち上げたこのプロジェクトでは、JR中央線の線路付け替えによって廃線となったトンネル2本の無償提供を受け、うち1本をワイン貯蔵庫(ワインカーブ)として再利用し、もう1本は遊歩道として整備。これらを市内に点在する



帰

還を目指して 仮設商店街がオープン

福島県楢葉町

ワイン製造の近代化遺産やワイナリー、史跡などをつなげてフットパス(遊歩道)とした。
平成20年からは、地域内の住民組織、事業者により組織された実行委員会によるイベント「ワインツーリズム」を開催し、翌年、第4回まち交大賞「創意工夫賞」を受賞している。
この取り組みの特徴は、近代化遺

産を線でつなぐことにより、地域資源の面的な広がりが可能になっていること。今では、甲州市から甲府市、笛吹市、山梨市と広がり、山梨県を代表する「体験型ツーリズム」となっている。

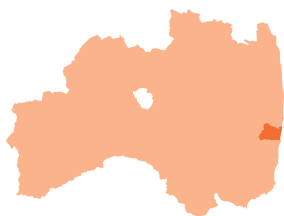
【お問合せ】
甲州市観光交流課
☎0553・32・2111(代)

2015年春以降の住民帰還を目指す楢葉町で、今年7月31日に、仮設商業共同店舗「ここなら商店街」がオープンした。売り場面積計約375㎡のプレハブ平屋で、食堂2店、スーパー1店が入居している。商店街は、中小企業基盤整備機構が建物を整備し、店内の設備や備品は県および町の補助により整えた。県内の避難指示区域内で商店街が開業するのは初めて。

「ここなら商店街」というネーミングは「飲食も買い物もここならできる」、「ここは楢葉」を掛け合わせて付けられたもので、復興への強い思いがにじむ。
入居した食堂は、そば・うどんの「おらは亭」と、ラーメンや定食などを提供する「武ちゃん食堂役場前



オープン当日の様相





平成26年度下期 原子力発電
施設等周辺地域企業立地支援
事業(通称、F補助金)の募集
を開始します

F補助金は、原子力立地地域における雇用機会の創出と産業振興を図るため、雇用の増加を生む企業に対して、一定期間にわたって、企業の支払った電気料金等に基づき、道府県が給付金を交付する制度です。

当センターでは、道府県からの要請を受けて交付事務・審査事務を行っております。平成26年度下期募集は、平成26年10月に行われる予定です。詳細は、募集時の「応募要領」をご覧ください。「応募要領」はホームページに掲載する予定です。

【お問合せ】総務企画部 立地審査課
☎03-6372-7307
ホームページ: www2.dengen.or.jp/html/works/yuchi/yuchi01.html
eメール: riti@denken.or.jp



7.1夏の東京
食の相談商談会
を実施しました

当センターでは、地域資源のブランド化等を支援することを目的に、各地域で生み出された特産品(産品)の開発・改良と販路拡大につながる「産品相談・商談会」を、年に3回程度実施しています。今年度の第1回は、平成26年7月1日(火)、当センターを会場として実施しました。

参加した13市町村の13事業者は、百



「7.1夏の東京 食の相談商談会」面談風景

貨店等のバイヤーと商品パッケージデザインから、商品の評価をはじめ、商品改良や販路開拓などについて様々なアドバイスを受けました。

■現地開催型「産品相談・商談会」
これは、市町村や商工団体等の求めに応じ、百貨店等のバイヤーを現地(地元)へ派遣し、参加者の時間的・費用的負担を軽減するとともに、実施後もバイヤーと相談・商談がしやすい関係が継続する、現地開催型の産品相談・商談会です。特産品を製造・販売する

次回開催は11月14日(金)、東京日本橋富沢町の綿商会館で開催する予定です。

事業者だけではなく、それに係わる地域の関係者を対象とした研修会や、製造のこだわり等をバイヤーに体感いただくための製造現場視察などを組み合わせることも可能です。

【お問合せ】地域振興部 振興業務課
☎03-6372-7305
ホームページ: www2.dengen.or.jp/html/works/hanbai/sanpin.html
eメール: hanbai@denken.or.jp



研修のご案内

当センターでは、平成2年度から電源地域の皆様を対象とした研修事業を実施し、これまで延べ2万人以上の皆様に受講いただいております。今年度も電源地域のニーズを踏まえたテーマを設定するなど、引き続き電源地域の長期的かつ自立的な振興支援をお手伝いします。

10・12月の研修につきましては、以下のとおりとなっておりますので、本研修事業を皆様の地域のまちづくりにぜひご活用ください。(各研修内容の詳細につきましては、ホームページをご覧ください)



昨年度に行われた「多様な主体が地域を創る」の研修風景

No.1 協働によるまちづくりを学ぶ

住民と行政の真の協働とは

平成26年10月23日(木)～24日(金)

No.2 企業誘致による地域活性化を学ぶ

平成26年11月予定

No.3 地域農業の活性化策を学ぶ

平成26年12月予定

【申込み・お問合せ】地域振興部 振興業務課
☎03-6372-7305

ホームページ: www2.dengen.or.jp/html/works/kensyu/index.html
eメール: kenshuu@denken.or.jp



今号のWebアンケート
プレゼント

「電気のふるさと」編集室では、今後のより良い誌面作りのため、Webアンケートを実施させて頂いておりま



あご野焼き詰合せ

【お問合せ】
(一財)電源地域振興センター
電気のふるさと編集室
☎03-6372-7305
ホームページ: www2.dengen.or.jp/html/leaf/furusato/enquete.html

なお、アンケートにお答えいただいた方の中から抽選で2名の方に今号の「わがまち自慢」に登場した島根県松江市の「松江の炭火あご野焼きセット」をプレゼントいたします。

■アンケート回答方法
当センターのホームページ(文末参照)の入力フォーム内のアンケートにご記入のうえ、「送信」ボタンを押して送信してください。

×切は平成26年10月31日(金)。当選の発表は発送(平成26年11月下旬予定)をもって代えさせていただきます。

第5回 「電気のふるさと」 フォトコンテスト

電気のふるさとを訪れて、その地域を象徴する、
四季折々の自然風景、生活、祭事、風物などが、表現された作品を募集します。

★★★賞および賞品★★★

最優秀賞 1点 旅行券3万円分

全作品の中から、最も優れた作品を最優秀賞として表彰します。

優秀賞 2点 旅行券1万5千円分

各テーマから1点(計2点)、優れた作品を優秀賞として表彰します。

※入選された作品は当センターのホームページ「電気のふるさと～電源地域ニュース～」で紹介する予定です。

「電気のふるさと」とは、私たちの暮らしを支える発電所がある地域(電源地域)のことです。建設準備中・工事中・運転中の原子力・火力・水力・地熱発電所等が所在する市町村と、その周辺の市町村(原子力のみ)を電源地域と呼んでいます。

対象となる市町村名は、当センターのホームページ「電源地域とは」(<http://www2.dengen.or.jp/html/area/>)をご参照ください。

募集要項

募集テーマ

- (1)「電気のふるさとの風景写真」
- (2)「電気のふるさとの暮らし(生活風景・行事・イベントなど)」

※応募は、(1)(2)のいずれかのみでも結構です。

応募方法

●作品について

カラーまたは白黒プリント。データでの応募は不可とします。

●サイズ

2L(キャビネ版)またはA4サイズとします。

●その他

応募用紙に必要事項をご記入の上、必ず作品に添付してください。
お一人様3点までの応募とします。なお、1枚の応募用紙で応募できる写真は1枚です。

※応募用紙は当センターのホームページにある「電気のふるさと」フォトコンテストの用紙をダウンロードして使用してください。

※応募に際しましては、「電気のふるさと」フォトコンテスト応募規定を必ずご確認ください。応募された方は、この応募規定を了承したものといたします。
(<http://www2.dengen.or.jp/html/works/photocon/>)

応募資格

日本国内に在住の方に限らせていただきます。

受付期間

2014年10月1日(水)～2015年9月30日(水)(当日消印有効)

※必ず郵送で応募してください(メール便不可)。郵送以外では受け付けいたしかねます。

送付先・お問い合わせ先

〒103-0012
東京都中央区日本橋堀留町二丁目3番3号(堀留中央ビル7階)
(一財)電源地域振興センター 電気のふるさと編集室
TEL:03-6372-7305(平日10～17時)
FAX:03-6372-7301
E-mail: furusato@den-gen.or.jp

入選発表

最優秀賞および優秀賞の結果は平成27年12月末発行の「電気のふるさとVol.42」にて発表いたします。

詳細はフォトコンテストの
ホームページをご覧ください

電気のふるさとフォトコン

検索

<http://www2.dengen.or.jp/html/works/photocon/>

電源地域 振興センター事業

通 用 例 紹 介

楽しみながら学ぶ 「エネルギー&放射線教室」を開催

北海道神恵内村は、平成26年1月18日(土)に、村内の小・中学生と、その保護者を対象にした「楽しく学ぼう！エネルギー&放射線教室」を開催しました。

この教室は、電源地域振興センターの「専門家派遣事業」により「エネルギー広報企画舎」代表・高木利恵子氏を招き、発電の仕組みや特徴、エネルギーと環境の関係、放射線に対する基礎知識等について、実験を通して子供たちが楽しみながら学ぶことを目的に実施したものです。

プログラムの中では、手回し発電機を使用した電気のつくり方や、霧箱を使用した放射線の観察実験、簡易放射線測定器を使用した放射線測定実験等を行いました。

特に、霧箱を使用した放射線の観察実験では、各自が実際に観察用の霧箱を作り、その中に放射性物質を入れ、放射線の飛跡を観察するというもので、日常生活においては、認識することが難しい放射線を観察しました。

参加者からは、「放射線が身近にも存在していることが理解できた」、「クイズや実験を通してエ

「専門家派遣事業」のご活用事例を紹介いたします

当センターでは、電源地域が抱えている課題の克服や問題の解決に向けて、各分野の専門家が現地指導を行う「専門家派遣事業」を行っております。本事業は対象とする事業分野を問わず事業形態も自由なため様々な課題を解決する「契機」としてご活用頂いております。

今回は、平成25年度に当事業をご活用いただいた事例の中から小・中学生を対象にしたエネルギー&放射線の「出前授業」を紹介いたします。

エネルギーについて学ぶことができる体験型の講義は、とてもわかりやすかった等、満足度が高い講義であったとの感想をいただきました。

このように、今回の「出前授業」では、実験を通して放射線の正しい知識を学ぶことによって、原子力の源となる放射線が身の回りに存在し、決して危険なものとは限らないことを、参加者の皆さんは理解されたようです。

エネルギーや放射線についての 理解促進に向けた専門家派遣

電源地域である神恵内村では、「エネルギーに関する最低限の知識習得が必要である」という認識から、役場や学校等が積極的にエ



「霧箱」を使用した放射線の観察実験

ネルギー教育を行っています。本教室の他にも、北海道電力泊原子力発電所の見学や北海道外の火力・水力発電所の見学等を行っており、原子力をはじめ、エネルギーに対する知識を深めるための教育を推進しています。

私たちの「専門家派遣事業」は、対象とする事業分野や形態を問わず「使い勝手のよい支援事業」として評価していただいております。今回ご紹介したエネルギー教育の「出前授業」のほか、商品開発や観光開発、地域おこし、企業誘致や農業振興など、様々な課題を解決する「契機」としてご活用頂けます。

平成26年度も「専門家派遣事業」のご要望を随時受け付けております。詳しくは当センターのホームページをご覧ください。下記までお気軽にお問合わせください。

■地域振興部 振興調査課

☎03-6372-7306

eメール: senmon@den-gen.or.jp

神恵内中学校における
実施後の感想発表会



「エネルギー広報企画舎」代表・高木利恵子氏の体験型講義